

平成 26 年度 新学術領域研究（研究領域提案型）審査結果の所見

研究領域名	宇宙の歴史をひもとく地下素粒子原子核研究
領域代表者	井上 邦雄（東北大学・ニュートリノ科学研究センター・教授）
研究期間	平成 26 年度～平成 30 年度
科学研究費補助金審査部会における所見	<p>本研究領域は、暗黒物質や超新星爆発に伴うニュートリノ放射の探索とともに、それらの実験実施に伴って必須となる低バックグラウンド環境の開発に力点を置き、深地下での素粒子原子核実験の技術的、科学的シナジーを追究するものである。近年の潮流として、加速器を使わない地下に設置した検出器を利用した実験が大きく進展している。この世界的に競争の厳しい分野について、先端的研究者が連携してより効果的な研究体制を構築し、領域研究として総合的に研究を推進する意義は十分に認められる。</p> <p>領域代表者は、組織運営について、これまで優れた実績を有しており、領域のマネジメントに問題はない。また、若手と経験者をバランスよく取り入れた総括班が構成され、年度ごとに各研究計画の評価を行い、助言、支援を行う体制も整っている。各研究計画は、それぞれが物理学上の重要な課題に挑戦する意欲的なものであり、観測と検出器開発に理論グループを加えた強力なメンバーにより研究組織が構成されている。共通する実験基盤の開発として、超低放射能技術の高性能化が計画されている。この取り組みは、各実験の成否を握る重要な課題であり、うまく機能すれば大幅な研究の進展が期待される。計画全体には有機的なつながりが認められ、本研究領域によって、新しい実験コミュニティの形成が確固としたものになることが期待される。</p>